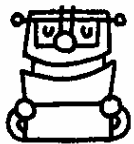


時間によって、なぜ葉のデンプンの量がちがうの



日が出ると、葉の中でデンプンがつくられはじめ、できたデンプンは、夜になると、別な場所に運ばれるからさ。

葉をとってきてデンプン調べの実験をすると、とってきた時間によって、同じくきについている葉でも、葉のデンプンの量がちがっています。

植物の葉は、デンプン生産工場です。朝日が出ると、葉の中で、日光の力をかりて、根から吸い上げられた水と、葉の表面にあいたあなから きゅうしゅう 吸収された二酸化炭素から、デンプンがつくられはじめます。同時に、酸素もできてきます。

朝のうちにとってきた葉は、まだ、デンプンをつくりはじめたばかりで、量が少ないです。夕方とってきた葉は、一日かかってつくったデンプンがたまっているため、量が多いのです。たまったデンプンは、夜になると、葉から植物の体の中で、栄養が必要な場所に運ばれていきます。そのため、朝日が出る前にとってきた葉には、デンプンが運ばれてしまった後なので、ほとんど残っていません。

植物の体の中には、血管のような管がある

葉がついたホウセンカのかきを、色水につけておくと、吸い上げられた色水で、くきに色がついてきます。くきや葉を切ってみると、色水が通る管が見えます。この管を通して、根から吸い上げられた水や養分が、葉やくきの先に運ばれます。

また、葉でできたデンプンは、水にとける物に変えられ、別な管を通して、成長しているくきや根の先、芽や実、種、いもなどに運ばれて使われたり、栄養分としてためられたりします。

